大域的文化システムの再構成に関する資料学的研究

研究代表者　關　尾　史　郎

1．分担者

永　木　敦　子
小　林　昌　二（現社研主担当）
高　橋　秀　樹
原　　直　史
舩　城　俊太郎
矢　田　俊　文
山　内　民　博

2．協力者・所属

白　石　典　之（新潟大学超域研究機構教授）

3．2007年度の研究活動の概要

2006年度に引き続き，超域研究機構所属の研究プロジェクト（2007年10月より，「東部ユーラシア周縁世界の文化システムに関する資料学的研究」と改名），ならびに大学院現代社会文化研究科のプロジェクトと連携して活動を行った。具体的には，以下のとおりである。

① 愛媛大学「資料学」研究会との研究交流

愛媛大学「資料学」研究会，ならびに同研究会を母体とした同大特別推進研究プロジェクト「古代東アジアの出土資料と情報伝達」などとともに，2007年10月６，７日（土,日）に公開シンポジウム「古代東アジアの出土資料と社会」を愛媛大学法文学部で開催した。本プロジェクトからは，代表者の關尾史郎がシンポジウムの司会として参加した。

② 公開シンポジウム「簡牘の世界 ― 越後・列島・半島・大陸・シルクロードを結ぶ ―」の開催

代表者の關尾史郎の企画・運営により，2008年３月２日(日)，新潟大学五十嵐キャンパスを会場として，公開シンポジウムを開催した。報告者は，小林昌二，關尾史郎のほか，李成市（早稲田大学），角谷常子（奈良大学），市川良文（龍谷大学），コメンテーターは，安部聡一郎（金沢大学），松原弘宣（愛媛大学）であった。

③ 研究例会の開催

超域研究機構の研究プロジェクト，大学院現代社会文化研究科のプロジェクトなどとの共催という形で，研究例会を，2007年７月，９月，12月，2008年２月（２回）の計５回ほど開催した。

④ 調査活動

メンバーの多くが，国の内外において，科学研究費補助金などにより，一次史料・非文字資料・考古遺物の調査を行った。詳細については，『大域的文化システムの再構成に関する資料学的研究 2007』（新潟大学超域研究機構大域プロジェクト，2007年３月）を参照されたい。

４．2007年度の研究成果の概要

メンバーの多くは，大学院現代社会文化研究科のプロジェクトにも所属しているので，その調査・研究誌である『資料学研究』第５号に成果を発表した。また大域プロジェクト研究資料叢刊のシリーズでは，分担者の矢田俊文が成果をまとめた。このほか，代表者の關尾が編集・発行している『西北出土文献研究』第６号にも，成果の一部が掲載された。

５．2007年度の研究成果の一覧

關尾史郎「随葬衣物疏と鎮墓文 ― 新たな敦煌トゥルファン学のために―」，『西北出土文献研究』第６号：５-25，2008年３月。

――「敦煌の古墓群と出土鎮墓文」（下），『資料学研究』第５号：横１-16。

――「シンポジウム「古代東アジアの出土資料と社会」参加記」，『資料学

の方法を探る』第７号：95，2008年３月。
原　直史 「近世港町をめぐる蔵ネットワーク」，『中世考古学文献研究会会報』第９号：19-35，2007年12月。
矢田俊文 「地震被害と摂津天王寺西浦・遠江中部低地」，『中世考古学文献研究会会報』第８号：１-13，2007年11月。
矢田俊文・新潟県立歴史博物館（編）『越後文書宝翰集 ― 大見安田・水原文書 ―』，新潟大学大域プロジェクト研究資料叢刊 Ⅰ，2008年３月。
山内民博 「朝鮮後期郷村社会と文字・文書 ― 伝令と所志類をてがかりに ―」，『韓国朝鮮の文化と社会』第６号：22-59，2007年10月。